

# グリーントマト

発行責任者 中田慶子  
〒850-8799長崎中央郵便局 私書箱第7号  
FAX 095-832-8488 DV防止ながさき  
HP : <http://www.no-dv-nagasaki.net/>  
E-mail [dv\\_greentomato@yahoo.co.jp](mailto:dv_greentomato@yahoo.co.jp)  
郵便振替口座 01730-6-103415

新年のご挨拶を申し上げます

理事長 中田慶子

新型コロナウイルス感染症が蔓延して1年。長崎県内も急激に陽性者が増えています。私たちも日々の支援活動に緊張しながら取り組み、学校での予防教育も1月中は中止やオンラインへの切り替えなどの要望もでています。

感染症の影響は万人に平等に降りかかっては来ず、弱い所を直撃します。仕事自体がなくなったり、収入減になる、在宅ワークで家事育児の負担が大きくなるなど、特に女性に大きなしわ寄せが来ています。飲食やホテル、観光関係の就労が激減する一方で、看護や介護といったケアの職場の求人は増えており、家でも社会でも、女性はケアワークを担っています。ここにもジェンダー格差がみられます。

女性のかかえる課題に対して、直接、国へ働きかける動きがいくつかあったので、ご報告します。当会も参加し私も理事の1人としてかかわっている「デートDV防止全国ネットワーク」は、去る11月19日、初めての院内集会（衆議院会館で各省庁の方や国会議員の方々で行う勉強会）を開催しました。会場には40人ほどの会員や、11名の各党の国会議員が参加され、省庁からの報告やネットワーク会員の各方面からの訴えを聞いていただく機会を得ました。オンラインで全国から70人以上の会員がこの様子を見守り、長崎を含め地方の理事からも短時間ですが発言をする機会を得ました。私たちが手探りで予防教育を進めてきて16年、ようやく一歩進めたかなと感します。詳細はネットワークのHPナタロン (<https://notalone-ddv.org/column/5316/>) をご覧ください。

また、12月21日には、上記ネットワークの代表委員である山口のり子さん（アウエア）と事務局長の阿部真紀さん（エンパワメント神奈川）が、自民党の野田聖子幹事長代行とともに橋本女性活躍担当大臣に面会し、DV加害者に更生プログラムの受講を義務付ける法整備とDV防止教育の義務化が必要だと訴える要望書を手渡しました。野田議員は橋本大臣に「コロナ禍のなかで女性の被害が増えている。一刻も早く取り組んでいただきたい」と話され、それに対して橋本大臣は、「加害者対策については、法制化に結び付けていかなければいけないと強く感じております」、また「子どもの時からの教育が重要だ。文部科学省に働き掛けるなど官民で連携して進めていきたい」と前向きな考えを示されました。

これからも省庁への働きかけは続けていく予定です。

とはいえ、まだまだ大きな変化がすぐに起きるとは期待できない社会です。歴史的に染みついたジェンダーバイアス、偏見と差別の構造を意識しながら、「誰ひとり取り残さない」というSDGs（持続可能な開発の17の目標）の具体的な実現をはかっていくことを求めています。



写真は、12月21日 橋本聖子大臣(右)に要望書を手渡す  
山口のり子さん(中央)、野田聖子幹事長代行(左)

## 子どもたちを応援したい



DVの目撃が子どもへの心理的な虐待であるということは、ようやく広く理解されるようになってきました。かといって、子どもたちへのケアの体制が十分にあるとは言えないのが現実です。お母さんや子どもたちが、安心感を持ち、新しい生活を作っていくことに少しでも役に立てばと、コンカレント（母子同時並行心理教育）プログラムを毎年実施しています。

今年は、前半もコロナの影響もあって、通常のグループでの7回のコンカレントプログラムは残念ながら実施できませんでしたが、一組のお母さんとお子さんへ4回バージョンで実施しました。また、住み慣れた環境から離れて、新しい学校へ通うようになる子どもたちも多いわけですが、以前の学校とは勉強の進度が違っていたり、仲良しの友達と離れてきたりすることは、子どもにとってはとてもストレスで、学校へ行けなくなったり、学習にお手伝いが必要になる場合もあります。学生ボランティアにも協力していただき、安全・安心な環境で、楽しく学んだり遊んだりする時間を作っています。ゲームをしたりおやつを食べてくつろげる時間でもあります。もと教師の方や、子供に勉強を教えるのが好き、という方が協力してくださると嬉しいです。

### 「DV根絶のための連続講座」開催 11月22日（日）

今回はコロナ禍で見えてきたDVの課題や、コロナ禍でのひとり親支援など、コロナの流行に伴って顕著になった問題について考える機会となりました。一番ダメージを被るのは、いつも弱い立場の人であることを今更ながら感じましたが、こんな時こそ誰ひとり取りこぼすことのない社会の確立が必要と感じました。長崎大学の見原礼子さんによるスウェーデンの取り組みを参考にしたお話は、日本と共通の課題もありますが、少年一人に三人の職員が関わり、更正や社会復帰に向けていくつかの制約が課されるものの恵まれた施設の中で暖かみのあるケアをされていることに感銘を受けました。

弁護士の伊東譲二さんからはDV防止法の基礎知識について伺いました。改正を繰り返していますが、まだまだ十分な法律ではないという感想です。（Y・K）



参加者の方からも次のような感想をいただきました。ありがとうございました。  
 「DV=暴力を根絶する→被害者を無くすためには加害者を無くす→その為に加害者を教育する→加害の本質やメカニズムを明らかにする→加害と被害は一人の人間の中でも複雑に絡み合っている…等々。今回肌で感じたことは、そのようなことを学び合うために講座を企画し、準備し、また聴くために集まった方々の存在の確かさでした。一日に凝縮された、密度の濃い講義の数々でしたが、様々なものを持ち帰れたように思います。これらは種子であり、それぞれの胸に蒔かれ、芽吹き、柔らかな双葉を風に震わせ、いつの日か花開き実を結ぶこともあるに違いありません。願わくば、私の胸にも。」

回	内 容	講 師
1	「コロナとDV」～コロナ下で見えてきた課題	NPO法人DV防止ながさき
2	「DVと警察」～警察のDV対応について	長崎県警察本部生活安全部人身安全対策課 課長補佐 竹田 正勝 さん
3	「コロナ下でのひとり親支援」	(一社)ひとり親家庭福祉会ながさき 事務局長 山本 倫子 さん
昼休み ※「同意とは何か」のアニメーション（紅茶の同意・kids版）上映		
4	「若年性虐待者の対応をめぐる課題」 ～スウェーデンの取り組みを参考に	長崎大学多文化社会学部 准教授 見原 礼子 さん
5	「DV防止法の基礎知識」	わかば法律事務所 弁護士 伊東 譲二 さん
6	「被害者支援の立場からの加害者更生プログラム」～長崎での取り組み	ながさきDV加害者更生プログラム研究会 副代表 佐藤 紀代子 さん
7	まとめ（質疑含む）	NPO法人DV防止ながさき

# アマランスフェスタ 2020.10.3(土)

DV防止ながさきでは、被害者の声と願いを文字や絵で表現したTシャツを、たくさん展示しました。コロナでアマランスフェスタに参加される方は少なかったのですが、足を止めて見てくださって、いい企画ですねとの声をかけてくださる方もいて、元気をいただきました。



## ～ 被害者支援に必要なフェミニストカウンセリングの視点 ～

### 福田由紀子さんの研修会 「支援におけるDVの捉え方、関わり方」から

昨年10月25日、当会の委託事業の一環として、講師に福田由紀子さん(久留米市のユキメンタルサポート代表、臨床心理士、公認心理士、認定フェミニストカウンセラー)をお迎えしての研修会を実施しました。会員以外も含め、32名が参加。

力と支配、種類とサイクル、マインドコントロール、暴力がおきる背景、逃げることの困難、コロナ禍での状況、発症しやすい精神疾患、ストレスとトラウマ、複雑性PTSD、DV=児童虐待、目黒女児虐待事件、子どもへの影響(子どもの生きづらさ・「パパと怒り鬼」)、子ども支援の鉄則(母親を責めない)、暴力は加害者の問題、DVと虐待と性暴力が密接に関わり合っていること、二次被害など、私たちが支援するうえで当たり前前に理解しておかなければならないことを総合的に学ぶことができました。DV被害者支援は、ジェンダー平等の視点が不可欠なのに、被害者である母親に対して「母親(女性)なら〇〇しないと」というジェンダー役割を無意識に強要していないか、と考えさせられました。

今後は、支援担当者のスーパーバイズをぜひお願いしたいと思いました。なぜかは、以下の講師の文章をこっそり引用することで納得していただけるでしょう。

[フェミニストカウンセリング学会 メールマガジン 247号より一部引用]

性犯罪者の更生プログラムに関わっていた時、受講者からよく言われた。「言葉で許可を求めるなんて、ムードがぶち壊しですよ!」。私「ムードを読み間違ったから、刑務所にいるのよね?」。受講者「イヤよイヤよも好きのうち、っていうじゃないですか!」。

私「イヤよイヤよは、嫌なんじゃああああ!」

そういえば、モラハラ男の常套句に「胸に手を当てて考えろ」というのがある。俺サマが望む答えを正しく察して当ててみろ、という要求だ。あの「柿の種」で、柿の種の中にある空気が正解だ、などと言われても「しらんがな」である。(KY)



## オンライン研修 花盛り

今年は、コロナ感染拡大に伴い研修会が相次いで中止となり、悔しい思いをしていましたが、夏前からオンラインでの研修がどんどん入ってきて、今後もますます増えそうです。地方に住むものとしては、交通費もかからず新しい学びができるのは大変ありがたく、以前より勉強の機会が増えたことはコロナの福産物とはいえ時代の変化を感じます。でも研修会のあとの直接の交流がないのは、やはり寂しいですね。

会員が参加した主な研修会や講演会は下記のとおりです。

- ・9月12日(土) BPW主催「女性のいない民主主義」講師：前田健太郎さん(東京大学)
- ・10月11日(日) 13時30分～「性暴力をなくすために地域ができること」講師：世良洋子弁護士(福岡) 主催：ながさき女性・団体ネットワーク
- ・11月8日 アウエア主催 加害者プログラム研修会
- ・11月26日 原宿カウンセリングセンター主催(講師 春原由紀さん) DV被害を受けた母子の支援
- ・12月13日 アウエア主催 DV・虐待防止のためにロサンゼルスとつながりライブ・オンライン講座 入門編 アリス・ラビオレットさんの研修会
- ・12月26日 全国女性シェルターシンポジウム



## 2020（令和2）年度 DV 予防教育指導者スキルアップ講座（報告）



毎年、長崎県の委託事業として開催しているDV予防教育の講師養成講座は、初めてオンラインで8月22日と23日、29日に実施しました。参加者は県内23名、県外からも4名あり、教員、相談員、これから予防教育をやりたい方、もっとスキルアップしたい方、など様々な方々が熱心に参加されました。

10時から16時までの基本的な講座と、小グループに分かれての模擬授業の演習とで、一日半の長丁場でした。初のオンライン講座なので、事前に練習を重ねましたが、それでも「声が聞こえません」「顔が見えません」「資料が共有されていません」などなど、最初はおたおた。しかも県外からの参加者が雷雨による停電でしばらく通信が切れてしまう、など、オンラインならではのハプニングもありましたが、オンラインでのグループワークも意外にスムーズに進行でき、和気あいあいと楽しく研修を終えることができました。今年の講座の内容は、「DVとは？ DV、デートDVの基礎知識」、「親のDVが子どもに及ぼす影響」、「予防教育の必要性と実施の際の留意点」、「今年度の新パワーポイントの更新内容紹介」、「模擬授業の実施」でした。「オンラインは初めてだったけど意外に楽しかったです」などの感想をたくさんいただき、ちょっと自信もついたオンラインデビューでした。



### ただいま、予防教育修行中！

今年度から会員となり、デートDV予防教育の勉強をさせていただいています。長崎犯罪被害者支援センターの支援員養成研修での講義をきっかけにDV防止ながさきに出会い、参加へとつながりました。

DV予防教育は、子どもたちにとってこれからをより良く生きるために必要な人権教育だと思っています。昨年3月から何度も授業を見学させていただき、先輩の講演を聞きながら勉強し、また夏のDV予防教育指導者スキルアップ講座でも学びました。

10月からは少しずつ授業を受け持たせていただいています。緊張し、講演の後は、別の伝え方があったのではと反省ばかりですが、生徒さんたちはとても真剣に聞いてくれるので「子どもたちにとっては、一生で一度限りの講演になるかもしれない」と、できる限りのことをお伝えしていきたいと思っています。

私が学生の頃はDVに関することや、性に関することは学校では学んできませんでした。パートナーとの交際や、友人との人間関係で悩むことがあっても、誰にも相談できずにいました。授業で学校にお伺いする時は、あの時何を知らなかったのだろうか、なんと言葉をかけてほしかったらどうかと考えながら現場に立っています。

先日、橋本女性活躍担当大臣に、加害者に更生プログラムの受講を義務付ける法整備と共にDV防止教育の義務化が必要だと訴える要望書が手渡されたと伺いました。

ぜひ全ての子どもたちに予防教育が行われるようになってほしいと願っています。

子どもたちには、できるのならば被害者にも加害者にもなってほしくないという思いと共に、人生で失敗しても大丈夫だということ、いつでもやり直せるし、抱え込まず相談していいのだということを伝えられたらと思います。

SU記



## デートDV防止全国ネットワーク

1ページでも報告したように11月19日（木）、デートDV防止教育を普及させるための院内集会を衆議院会館内で開催。各地域からもオンラインで参加し、当会からも短い時間でしたが県や市など行政との協働や実態状況の報告をしました。各党から11名の国会議員の方々の参加があり、デートDV防止教育の必要性を理解していただけたのではないかと思います。デートDVは、10代のカップルの3組に1組で起きていて、とても身近な問題であると同時に、エスカレートし、交際相手や元交際相手を殺してしまう事件も頻繁に起きており、深刻な問題です。デートDV防止教育は、DVをなくすための対策として効果的で重要な施策であると国連は勧告しているとして、「すべての子どもたちにデートDV防止教育を」と題した要望書を各議員、省庁あての提出しました。

また、全国ネットワークでは、2020年11月から2021年1月にかけて各地の中学生を対象に効果検証のためのアンケートを実施中です。

結果は3月7日のスプリングフォーラムまでにまとめ、発表する予定です。



## 全国女性シェルターシンポジウム2020から

2020年のシェルターシンポジウムは、徳島で開催予定でしたが21年へ延期。代替企画として12月26日（日）14時～16時 オンライン開催となり、全国女性シェルターネットが10月に発表した「私たちが求める女性に対する暴力対策（DV編）」の内容を中心に、海外の現状も踏まえて日本のDV対策の問題点と改善の方向について、共同代表の北仲千里さん、山崎菊乃さんが、司会進行の古久保さくらさん（大阪市立大学准教授）を交えて語り合いました。2014年の「イスタンブール条約」には、「暴力の被害を受けたすべての女性と子どもには、専門的な支援サービスを受ける権利がある」とされています。ヨーロッパの現状についての事前インタビューも紹介されました。今年は、徳島でのリアル開催ができますように！

## DV加害者プログラムの目的～暴力への「気づき」について

DV加害者プログラムの目的は、「DV加害男性が暴力をやめ、暴力に代わる行動を学び、実践していくこと」であり、その結果として、「被害者（パートナー）や子ども、参加者を取り巻く人々と尊重しあえる関係が築けるようになる」ことを目指している。プログラムの重要なポイントとして、「暴力的な態度や考え方が、自分自身を含め、パートナーや子どもに、どのような影響を与えてきたのか」客観的に理解し、「今後、どのように、変えていく必要があるのか？」参加者一人一人に、考えてもらうことである。

「妻が反論するのが、どうしても許せなかった」「家族は父親の言うことを聞くのは当然だ」など、参加者の大半は、ジェンダーの価値観を当然のように思っている。プログラムを受講して、自らの考え方が、どのようにして日常的な暴力に結びついてきたか、「ここへ来て、初めて考えた」と発言する参加者が多いことに驚く。パートナーや子どもへの暴力がもたらした影響を考えることは、彼らにとって、自らを見つめなおす、非常に苦しい作業である。ファシリテータが共感的に受け止めながら、参加者同士の互いの気づきを経ることで、彼らの非暴力への変化が、少しずつ可能になることを期待したい。

当団体は、現在、第5期目のDV加害者プログラムを実施中である。今年度は、一部、ZOOMによるオンラインでのプログラム実施もスタートした。コロナ禍におけるDV・虐待の不安を解消するために、今後も少しずつできることを続けていく。

お問い合わせ ながさきDV加害者更生プログラム研究会

電話 070 - 2833 - 7399 メール info@non.dv.com



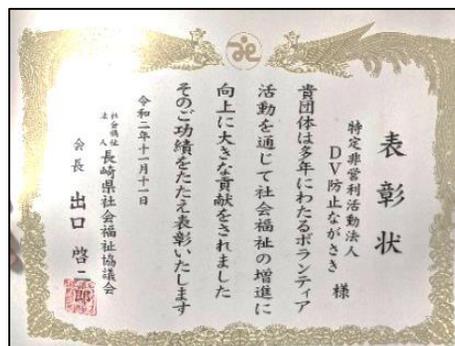
## 「いつもご支援いただき ありがとうございます」



- ☆デートDV防止教育に対して、国際ソロプチミスト（S I）長崎の皆さま、S I 佐世保の皆さまから、それぞれ助成金をいただき、その地域での予防教育に活用しています。また、諫早、大村、佐世保パールのソロプチミストの方々にも、様々なご支援をいただいています。
- ☆ララコープ生協様からの「ララ元気ねっと活動補助金」では研修のための図書を購入、「ララ元気ねっと特別支援補助金」は、昨年11月の「クリスマスリース作り」の一部に活用させていただきました。毎年多くの参加者があり、楽しいひと時を過ごせています。
- ☆ヨガや書道、フラワーアレンジを教えてください先生方の継続的なご協力により、心身を整え新しい自分を発見、生活を充実させ、自信を取り戻す大きな助けになっています。
- ☆全国女性シェルターネットを介して、ハウス食品から温めないで食べられるレトルトカレー60個をいただきます。1月到着の予定。他にも化粧品メーカーからのご寄付や、ユニクロからの新品衣類が大型段ボールで届き、赤ちゃん衣料も多くて助かりました。
- ☆赤い羽根特別募金へのご支援、日頃の日用品のご寄付など、ほんとうに多くの方のご協力で、さまざまな活動が継続出来ていることに、心から感謝申し上げます。

### 長崎県社会福祉協議会様から表彰状をいただきました

当会の長年の活動に対して右記の表彰状と記念品をいただきました。地道な活動が認められたと嬉しく思います。これも支援して下さる皆さんのお力添えと、会員の皆様のたゆまぬ努力の結果と感じています。これからも無理せず、息長く、各自ができることを継続していきたいと思ひます。



### 「できたよ！ 個性あふれる クリスマスリース」

2020年11月末、『フラワーアレンジメント』（ララコープの特別支援金活用）を実施し、今回は“クリスマス・リースを”作成しました。毎年、講師には丸野明美さんをお願いしていますが、今回のリースは、生の葉物を数種類使いドライフラワーとしても長く楽しめるように工夫して下さっていました。飾り物の松ぼっくりや姫リンゴなどをそれぞれが自由な発想で飾り付け、皆さん、素敵なリースが出来上がっていました。参加者は大人28名、高校生含む子ども17名の総勢45名。ほとんどの方が初めての経験で最初は苦戦？しながらも最後まで集中して楽しそうに取り組んでいました。幼児には、ちょっと難しい部分もありましたが、スタッフが手伝ってなんとか無事に出来上がって嬉しそうな笑顔。

年末のクリスマス会や忘年会は、コロナのためにお預けになりましたが、手づくりリースを持ち帰って飾り、12月には各家庭でクリスマスを迎えてもらえたのではと思っています。（N. I）



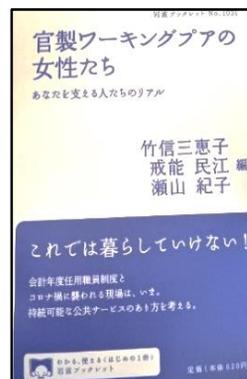


## お勧めの本～ステイホームのひと時に

### ○官製ワーキングプアの女性たち

戒能民江、竹信美恵子、瀬山紀子 著 岩波ブックレット

DV相談の最先端の婦人相談員、男女共同参画センターの職員、自治体の相談窓口の職員など、市民を支える多くの方が実は、非常勤職員で身分も不安定な女性たちなのです。その実情が初めてまとまった書籍になりました。これでいいの？と著者たちは訴えます。これで市民を守れるの？と。それよりもさらに条件の悪いNPO等が全国各地で長年シェルターを支えてきました。次世代へ支援を「専門性のある仕事」としてつなぐには考え方の根本的な転換が必要です。



### ○セルフケアの道具箱 伊藤絵美、イラスト細川貂々

コロナで不安を抱える人にも効く！

ストレスは悪いものではありません。ストレスだなど感じることは、実は自分を守る大事なアンテナ！ そのストレスと上手につきあうための100のワークを「ツレがウツになりまして」の漫画家、細川貂々さんがほっこりとしたイラストで表現。一家に一冊の必需品かも。



### ○「不登校」「ひきこもり」の子どもが 一步を踏みだすとき

内田良子(心理カウンセラー)著 ジャパンマニシスト社

学校が、今その子にとって苦しい所なら行かなくてもいい、子どもの力を信じてところから始めると、長年の支援の経験から語られる温かい言葉の数々が心に届きます。



### ○14歳からの精神医学 心の病気ってなんだろう

宮田雄吾 著 日本評論社

こころの病気ってどんな症状がある？どんな治療をするの？以外に多い子どもから思春期にかけてのこころの不調。ゲーム依存や社会不安症など、身近なこころの病気を、親にも子どもにも、その周辺にいる友人たちにも知ってほしいと、10年前の著書に新章を加えた新刊です。



毎年11月の女性に対する暴力防止週間に県内8か所でパープルライトアップが実施されました。各地の動画を下記の長崎県男女参画・女性活躍推進室HPやYouTubeアドレスから見るができますのでぜひご覧ください。

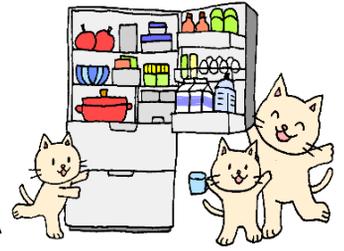
<https://www.pref.nagasaki.jp/yokatv/detail.php?id=2414>

<https://youtu.be/Yle3IN63bv4>



## 赤い羽根募金「使い道を選べる募金」へご協力のお願い

- ・今年のテーマは「家電品を4所帯に！ 目標金額 60万円」
- ・2021年1月～3月31日の 期間限定寄付です。
- ・振込用紙付きのチラシを同封しています。お手数ですがATMでなく窓口での振込をお願いします。
- ・来年2月の確定申告手続きで所得税の控除ができます。
- \* 昨年の赤い羽根特別募金では中学・高校の授業で生徒に配布するハンドブックを印刷しました。ご支援ありがとうございました。



郵便振替口座 01870-8-22522 社会福祉法人長崎県共同募金会 「DV防止ながさき」とご記入を

### 今後のイベントのご案内

- ☆ 2021.3.7（日）デートDV防止スプリングフォーラム（オンライン開催）10時～16時  
参加費 3000円 NPO法人デートDV防止全国ネットワーク主催  
全国どこからでも参加できます。申し込みはHPから (<https://notalone-ddv.org>)
- ☆ 長崎市内の公共施設はしばらく使用が制限され、会合やイベント開催も困難に。感染が一日も早く収束しますようにと祈ります。

### 暮れのニュースに嬉しい驚き！

文科省が令和3～4年度に、子どもたちが性暴力・性犯罪の被害に会わないように、予防のための知識を学ぶ事業を試行するとのこと。その中身は、小学生には「水着で隠れる部分（プライベートゾーン）は他人に見せない、触らせない」やデートDV予防教育も含まれています。

昨年6月11日に、省庁を横断した関係者会議で「性犯罪・性暴力対策の強化の方針」が打ち出され、その中には、性暴力被害の影響の深刻さ、身近な人からの性暴力が多いこと、それを防止するための具体的な対策がたくさん盛り込まれて、教育の重要性も強調されました。さっそくそれが具体的な形となったことは素晴らしいと思います。試行から全国的な展開へと広がることを期待します。

私たちが長年予防教育で伝えてきた中身が、ようやく必要な知識として、子どもたちへ伝えられていくことになり、こんなに嬉しいことはありません。しっかり内容を注目していきましょう。



### DV防止ながさきの電話相談 ～ 必要な方へ情報が届いてほしい！

暴力を我慢する必要はありません。週4日、夜も電話を受け付けています。何度かけても構いません。秘密は守ります。名前を言う必要はありません。夫や恋人との関係、今のこと、昔のこと、心にひっかかっていることをとにかく話してみませんか。必要があれば専門機関へつなぐこともできます。（面接は要予約です。安全な場所でお話をうかがいます。）

月・水・土 13：00～17：00 ☎ 095-832-8484

月・水 19：00～21：00 ☎ 095-832-8484

火 17：00～20：00 ☎ 080-2794-8022